



(99) インターネットバンク新時代

野村総研(上海)咨询有限公司

スーパーインターネットバンク(SIB)とは、中国人民銀行(中央銀行)が9月からテスト運営している新しいインターネットバンクのインターフェースである。SIBを利用すれば、ユーザーは一つのサイトで、自分の持っている全ての銀行口座にアクセスし、銀行間振り込みや支払いができるシステムである。これによって、従来のインターネットバンクのような、各行のホームページにそれぞれ登録し、操作することは不要になる。

◇安全性の確保が主要課題

例えば現在、建設銀行のインターネットバンクに接続すると、画面にSIBのリンクが表示されている。クリックすると、SIBの画面が現れ、四つの機能が利用できる。建設銀行と他行間の振り込み 他行口座から建設銀行クレジットカードへの返済 建設銀行以外の銀行口座の残高および利用履歴確認 他行のインターネットバンクサイトで建設銀行口座を管理することを認証する機能 - である。

SIBを利用するには、インターネットで管理したい口座が発行銀行のインターネットバンクにすでに登録されていることと、SIBで管理したい口座間の管理権限の認証も必要である。SIBは一つのIDで、銀行間振り込み、エスクローサービス(第三者支払い)などの機能を実現する。そして銀行間は統一されたプラットホームで、共通のデータ構造のため、銀行間振り込みの即時送金、24時間の銀行業務が実現できる。

1回の登録で全ての銀行口座を管理できることは、消費者にとって非常に便利なシステムではある。しかし消費者が懸念する最も大きな課題は安全性である。これまで中国の銀行は強い立場を取ってきており、インターネットバンクにおける盗難・損失などは全てユーザー責任で、銀行側は一切責任を負ってこなかった。SIBの利用で盗難などの損害が発生すると、複数銀行の口座が存在するため、「責任の所在が分かりにくくなり、銀行間で責任のなすり付けが生じかねない」という声が利用者からは上がっている。この点に関して、SIBはいまだテスト運営の段階にあり、消費者に対する安全性の説明はまだなされていない。

◇エスクローサービス市場を奪えるか

SIBはエスクローサービス機能を持っているが、今回のインターフェースは銀行以外には開放していない。そのため、淘宝网(タオバオ)を運営するアリババが提供する支付宝(アリペイ)のような第三者支払いサービスと競争し、最終的に勝ち残ることで、決済業務の国家寡占を実現することがSIBの目的ではないか、という説が盛り上がっている。

一方、アリペイは銀行がまねできない優位性を持っているため、SIBの市場寡占化はないとアリペイはコメントしている。アリペイは現在、タオバオによる絶対的なユーザー数の確保を背景に、絶対的な市場シェアを持っている。それだけでなく、新規サービスを次々と公開し、光熱費から電話通話料、さらに結婚祝金まで、中国の消費者の生活にかかわる支払いサービスを提供し、消費者から絶大な支持を受けている。また携帯電話支払いの登場により、今後は携帯キャリアやコンテンツ開発業者と提携し、携帯電話による決済サービスを提供する計画を公表している。

インターネットバンキングの発展と共に、決済分野での銀行勢とアリババの争いが注目される。

(コンサルタント・管小鶴)